

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
1	2020年度からの新学習指導要領にも、「主体的・対話的で深い学び」とあるように、子どもたちの本当の意味での生きる力、考える力を育てていけるように考えて、学校再編統合に取り組んで欲しい。今の教育は、明治時代から150年続く一斉教育である。再編統合は学校改革のチャンスだと思う。	今仰ったように、今回の学校再編は単に学校の小規模化を解決するだけでなく、学校改革のひとつと位置づけている。これまでの学校が抱えてきた課題を解決し、子どもたちの未来のため、柳川の未来のためにしっかり取り組んでいきたい。
2	日本全国どこも学校の再編統合をしているが、例えば20年前に再編統合した地域が今どうなっているか知っているか？移住等で住む場所を決める際、小学校が近くにあり、子どもが自分の足で安全に登校できることは重要である。この計画案では、子育て世代は柳川に来なくて良いと言っているようにしか聞こえない。私は小学校の統廃合については反対である。せっかく平成23年時点で踏みとどまってくれたので、千葉県流山市の政策を参考にするなどしてもう少し頑張りたい。大人数での教育が良いとは全く思わない。今回の再編統合により人口減が更に加速しないか心配である。流山市の政策はご存知か？	千葉県流山市の政策については、企業誘致の成功例で、巨大物流センターによる雇用創出に加えて、センター内のカフェや屋外広場が一般開放され、地域と良好な関係を築いており、人口も増えていると聞いている。他校区の説明会においても、学校を減らすのは人口減を受け入れているのかと意見が出た。私共としては、これから先、更なる人口減が予測される中、19小学校を維持するのはなかなか厳しいと考えている。小規模校を維持し続けることで人口が増えるとは考えにくいので、まずは、学校を再編することで教職員を確保し、未来の子どもたちのために充実した教育環境を整備し、周囲に誇れる立派な学校を作りたい。そのためには今回の計画案が良いのではないかと考えている。
	流山市は子育て支援にも力を入れ、お金と時間をかけている。現在の人口減のスピードと比べて、学校の統廃合が早すぎるのではないか。20年、30年後のことをどこまで考えているのか疑問である。この説明会は計画決定の周知なのか？	現在は計画案の説明を行っているところである。引き続き、保護者向け、地域住民向けの説明会を各校区にて順次行う。その後、パブリックコメントを実施し、意見を集約、検討した上で正式な計画としたい。
	これから東宮永校区に若い世代が移住してきたとして、学校が遠くてもそこに住むか考えて欲しい。 複式学級だったら、自分もやむをえないと思うが、現在の計画は拙速すぎる。	どのような基準で住む場所を選ぶかということだが、確かに小学校との距離は重要な要素であると理解している。私共としては、複式学級が発生するような小規模な学校に子どもを通わせるのか、体制の整った適正規模の学校に通わせるかを考えれば、適正規模を確保し教職員の体制を整えることで、充実した教育を受けさせたいと考えての計画である。ご理解をお願いしたい。

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
3	<p>蒲池、昭代校区において、通常の小中学校ではなく義務教育学校を選択する理由は何か？義務教育学校は9年制となり、成長に大きな差がある中学3年生から小学1年生までを、一人の校長でまとめられるのか？義務教育学校のメリットを聞きたい。</p>	<p>(学校教育課長) 今回の再編の基準に照らすと、例えば、蒲池校区に隣接する校区は旧三橋町地区の矢ヶ部校区と、わずかな境界で接する昭代校区であり、他の校区との組み合わせが難しい。そのため、小学校同士、中学校同士が合併して、横に広げるのではなく、小学校と中学校が合併することで、縦に広げ9年制にすることで学級数を確保する考えである。これにより、一定規模の教職員集団を確保でき、他と同様に教育環境の充実を図ることができる。加えて、蒲池、昭代校区においては小中学校の校舎が隣接しており、義務教育学校を作るのに適した条件があった。</p> <p>(首席指導官) かつては小中一貫校という形態しかなく、これは、あくまでも2つの学校であり、2人の校長が居るため、学校間の連携や教育方針等に関して課題が多かった。先行事例を聞くと、義務教育学校はひとつの学校であることから、小中学校のよさがミックスされて、うまく改善できたという話だったため、教育委員会で導入を検討したものである。</p>
4	<p>学校再編には賛成である。教員が多忙化しているため、再編により職員を充実させて余裕を持たせなければ、子どもと接する時間が少なくなる。</p> <p>ただ、矢ヶ部校区を柳河・蒲池校区と、藤吉校区を柳河・城内校区と組み合わせるのが難しいのはなぜか？もともとの市町が別だったのは分かるが、今回の組み合わせでは距離的な負担が大きい。子どもが歩ける範囲で校区を組み合わせれば、スクールバスの台数も減り、その資金をもっと教育の充実に投資できるのではないか？</p> <p>子どもたちは、学校が統合されて大変なので、大人たちもがんばって欲しい。子どもたちのために通しやすい校区に再編して欲しい。</p>	<p>再編にあたり、旧市町の範囲を超える組み合わせを行わないとした理由としては、小学校区と地域コミュニティの結び付きが非常に強いためである。現在でも、公民館連絡協議会や区長会など多くの地域組織が旧市町のまとまりで動いている背景がある。全てを白紙にして組み直せば、もう少し効率的な形が見つけられる可能性もあるが、住民感情や行政の活動上の問題が大きいため、現状では難しい。</p>

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
	説明には納得するところが多かったが、例えば人口減への取組と学校再編の関係や、今後の跡地の活用についてなど聞けると思っていたので、他の部署での取組みと連携した部分での説明が欲しかった。	確かに今回は学校再編についてのみの説明になっている。教育委員会の私は市の取組みについて申し上げる立場に無いが、市は現在、人口が少しずつ減っている事実を受けて、移住・定住促進や子育て支援の取組みを行っている。しかし、どこの自治体も同じように定住促進等を行っており、全国で人が減る中で、取り合いをしているような状況である。そのような中、教育委員会としては、市外の方からも選んで頂けるような立派な学校をつくるのが、今回のミッションだと考えている。対処療法的にスクールバス等により通学距離の問題を解決するやり方には賛否が分かれるところだと思うが、適正規模に再編することで教職員を確保し、子どもたちが学校に通うのが楽しみになるような、充実した教育環境を整えることが急務であると考えている。
5	スクールバスについては、夏場の熱中症等も防げるので、安心する保護者も多いと思う。通学時の安全も確保できる。 これは質問ではなく意見だが、今後、柳川市として何を売りにしていくのか、この機会に何を指すのか明確にして、お互いがんばらないといけないと思う。親もここで教育したいと思うような、このような良いことがあるから学校を再編するなどの説明があると子どもにも話しやすい。今後そのような説明があると嬉しい。	ありがとうございます。ご意見はありがたく受け止めさせていただきます。
6	私も質問ではなく意見である。再編やそれに伴うスクールバスの導入については賛成だが、外から来た人間なので、旧市町の繋がりであるとか、公民館とかが学校再編の組み合わせの理由になることが、正直なところ分からない。現状難しいということだけは分かった。しかし、学校が再編されることで、子どもたちの環境は激変してしまう。大人たちの事情で子どもたちが犠牲にならないようにして欲しい。	(学校教育課長) 参考にさせていただき、保護者の方へより丁寧な説明を心がけたい。今後、旧市町の垣根はだんだん越えられていくと思うが、現状は人によってその意識に差がある。現在の地域コミュニティ活動が小学校単位で結びついていることはご理解いただきたい。 (首席指導官) 子どもたちと、どのようにこの問題を共有するかという課題をもらったと思う。今後、地域の繋がり子どもたちの関係性を考慮しながら、再編の意義を教える取組みを行いたい。
7	スクールバスのルートや集合場所等はどのように決まるのか？	再編協議会(仮称)で検討していただく。ただ基本的に、各家庭を回るのは不可能だと考えている。最初に乗った子が長時間乗らなくてはいけない事態は避けたい。集合場所をどこにするか、体力の低下を考えて、学校から少し離れた場所に下ろして集団登校させるなど様々な考え方があると思われる。
8	閉校、開校はどのような流れで行われるのか？	年度末にそれぞれの学校で閉校式を行い、年度初めに統合先の学校で開校式を行う形を考えている。

No.	質問・意見概要	教育委員会の回答・考え方
9	現城内小、現柳城中の工事期間はどれくらいか？予定でかまわないので教えて欲しい。	設計が固まっていないため未定だが、子どもたちへの影響が可能な限り少ない方法を検討していく。また、開校後にも必要であれば資金を投入し、整備を行っていきたい。
10	閉校する学校についての要望である。柳川市は水害と隣り合わせであるため、学校を避難場所として使わせていただきたい。 また、今の教育形態である学年制は限界を迎えていると思う。習熟度によって飛び級が可能な仕組みを1校でも良いので導入し、将来的に広めて欲しい。	ほかの地区でも同様の意見があった。跡地の活用方法を今後検討していく中で、そのような意見があったことは伝えていく。 教育形態については、学習指導要領の中で検討し、出来る限りの取組みを行っていきたい。なお、習熟度別にクラスを分ける取組みは今も行っているところである。